

RD 産廃処分場についての対策

有害物を撤去し、環境を汚染から守るための提案

(栗東市 RD 産廃物処分場環境調査委員会)

2008年1月14日

RD 問題の現状

1. RD 処分場問題は、8年を越える経過があり、住民運動の努力とその間の RD 元従業員からの聞き取り、掘削調査、分析調査などによって、処分場内の有害物の存在、地下水と周辺環境の汚染を明らかにしてきた。
2. 現在、この環境汚染に対してどのような対策を立て、被害を防止するのかということを現実化することが最大限の課題となっている。
3. 本日提案される案は、① A 案及び三者案 処分場内の廃棄物等の全量除去と全周遮水壁の設置、② B-1、B-2案 全周遮水壁と水処理施設の設置、③ C案 覆土と汲み上げ井戸の設置の三案である（第10回県対策委員会資料から）。
4. これらは次の問題があると考える。
 - ① A 案、三者案は、全量撤去をするものであり、望ましいのはいうまでもない。しかし 240 億円から 400 億円の費用を考えると現実的にきわめて困難であろう。
 - ② B 案は遮水壁での防止を主とするものであり、遮水壁の遮水性と耐久性の問題を考えると採用できない。③ C 案は論外

RD 処分場対策の基本

現在は、具体的な対策案を立てる段階にきており、それは現実的に可能な対策案でなければならない。理想的であるが現実化の困難な案や、不完全な案の検討に時間を費やす現実の対策が遅れ、地下水等への汚染防止が遅れたり、対策がうやむやになってはならない。

具体的な提案

1. もっとも大事なことは、処分場内の有害物による環境汚染を防止することである。そのためには環境汚染の原因となる「有害物」をすべて撤去することを目指す。原因を除去すれば、汚染はなくなる。具体的にはドラム缶等の有害物とその周辺の汚染土壤、

- 汚泥、焼却灰、揮発臭や変色などがある土壤、汚染が疑わしいおよび土壤の撤去である。この基本の方針をまず確認する。
2. 有害物とそうでないものをいかに選別、撤去するかという検討をおこなう。
 - ① 廃棄物の掘削調査などによって有害物の埋め立て状況を把握する。
 - ② 有害物選別のマニュアルを作成し、有害物を撤去する（目視と現場で行える検査）。
 3. 工事自体による周辺環境に対する悪影響を防ぐ方法を考え、計画実施する。
その対策は工事ごとに、それに見合って実質的におこなう。たとえば、現場での鋼矢板とくみ上げ等。大掛かりな全周遮水壁は必要ないと考える（費用 26 億円、2 年の期間、その工事自体の周辺への影響。またソイルセメントの全周遮水壁は全国的に有害物封じ込めの終結に使われており、それで終わる可能性が高い）。
 4. 有害物撤去後に、撤去しきれない残留物による汚染を防ぐ方法とモニタリングを計画する。
 5. 費用は、下記のとおり 100 億円以下と試算している。

費用試案

1. 有害物掘出し：全量として **15 億円**（深掘穴 3 万 m^3 で 6 千万円で、7 万 2 千 m^3 がその 12 倍で 15 億円。工事中に汚染防止対策として α ）
 2. 有害物処理：20 万トン（10 万 m^3 ）として **40 億円**（1 トン 2 万円、1 m^3 4 万）
 3. 残留有害物による汚染拡大防止対策：**10 億円**
- その他： β
計：**65 億円 + $\alpha + \beta$**

参考 1

滋賀県の計算では、「場外排出処理」で、1 m^3 5 万円と計算している。上記 2 は「処理」だけで 4 万円とした。

参考 2 (福島県いわき市) 計：35 億円

内 有害物処理 (業者委託：ドラム缶 5 万 5 千本、土壤 11000 トン) : 24 億円



大阪市立大学
大学院教授

畠 明郎

栗東市のR Dエンジニアリング廃棄物最終処分場に放置

されている有害物汚染問題で、県は①廃棄物の全量撤

去、②廃棄物を遮水壁で囲つて汚染地下水を汲み上げる、

③汚染した地、水を汲み上げる。この3案を打ち出しました。

概算事業費は、全量撤去約400億円、遮水壁約33億円、汲み上げ約14億円として汚染象を与え、遮水壁に目が行ききります。全量撤去が高額の印

象をうながすが、この案では汚染を防ぎきることはできません。

最初に指摘したいのは、全量撤去(①案)の過程で設置する応急的な遮水壁など、半永久的に使う遮水壁(②案)が同じものであることです。②案が適当かどうかは別にして、こ

れはおかしな話です。

遮水壁には種類があります。一番いいのはコンクリート。

問題なのは、廃棄物を遮水壁で囲い、表面から雨水が入らないようにして水を汲み上げていくと、5年できれいにしないようにしていることです。土壤が汚染されれば、地下水汚染は50年、100年と続きます。県の案では地下水のモニタリングを5年間に設定していますが、もっと必要になるでしょう。その分ランニングコストが増え続けます。汚染物はそのままでも、汚い水を汲み上げればきれいになると、いう前提が誤っています。

遮水壁も劣化し、コンクリートでも20～30年たてば割れ目ができます。酸性の水に対する反応するので劣化は早まる恐れがあります。半永久的に費用がかかります。

全量撤去の案は、工期16年で費用もかかりますが、汚染物質を除去するので根本的解決に迫っています。基本的に分別して、危ないものと木屑や金属などにわけ、リサイクルできるものは利用し、有害物は処理していく。青森や岩手などではそうしていまます。県が出した400億円は、もうと安くできる方法があると思います。まず、処分場全体を掘削し、有害物質が入ったドラム缶などを撤去して処理することが必要です。

R Dの有害物汚染は、遮水壁で解決しない

